

アマチュア登山家でもある県教委嘱託職員、村上隆司さん(50)＝養父市建屋＝が、登山体験をつづった紀行文集を自費出版した。名付けて

「なかよしひまじんの旅日記・天の巻」。登山家ならずとも吹き出してしまうような愉快な旅を克明にしたためている。(三上彰規)

ミニコミ「ひまジャ」23年分から

村上さんはさまざまな日常体験をつづるミニコミ誌「なかよしひまじんジャーナル」(ひまジャ)を2カ月に1冊のペースで発行している。1988年8月に創刊し、今年の9月号で105号に至った。今回自費出版したのは二十数年続く「ひまジャ」に掲載した紀行文の中からよりすくった14話。その一つを紹介すると、旧朝来郡藤和村(現朝来市)の庄屋に奉公にきていたお杉という娘がいて、水戸郡大碑村(現丹波市)の生まれだった。「父、危篤」の知らせで夜に古里へ向かったが大雪のため遭難死したと

2011/10/6 よりすぐりの愉快な登山旅

養父・村上さん出版

「やめておけ」と言われたが、あえて遭難現場に登ってみると、お地蔵さまがあった。昔話では「その後、お地蔵さまに花が絶えたことがありませんと書いてあったので、花でも供えようと思った

登山紀行文集「なかよしひまじんの旅日記・天の巻」を自費出版した村上さん＝養父市建屋

が見あたらず、杉の若葉を供えて下山した。すると、地元の人たちが「あんたあついでるでえ…」と後ずさった、といった怪談めいた逸話も。一方、旅先での出会いや一緒に登った人との交流など楽しい話も多い。村上さんは「天の巻を出したからには地の巻、人の巻も出版しなければ」と意気込んでいる。文庫版95円、1冊千円。村上さん ☎090・5090・5090・2469



「なかよしひまじんの旅日記」14話を収録